
教室の自殺女神（イシュタム）

宛宮志貴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イシュタム
教室の自殺女神

【Nコード】

N9253Z

【作者名】

宛宮志貴

【あらすじ】

イシュタム。

自殺を司る女神。

「死ぬなら首つりが良いよ」

そう勧めてくる女と、イシュタムは、同じモノの様に思えた。

教室の自殺女神
イシュタム

「自殺するの？ だったら首を吊るのがいいよ」

放課後の教室という世界の中、そいつは笑った。

右手に持ったナイフが汗で滑り落ちそうになるのを持ち直して、僕は、ただ驚きに目を丸くしていた。

自殺しようとしていたところを運良く 運悪く？ 人に見つかった事に。

いや、本当は恐怖していたのかもしれない。

自殺しようとしている奴を止めない、しかも首吊りを勧めてくる彼女に。

だらだら流れる汗を拭う事もできない固まった僕の体に、彼女は歩み寄ってくる。

青いダウンジャケット。

紫と白のしましま模様の長いマフラー。

胸まで伸びる真っ黒な髪。

黒ぶち眼鏡の奥の、猫の様な瞳。

そして、あがった口角。

彼女は、ポケットに手をつこんだまま、ゆっくり僕へと向かって来ていた。

僕はどうしたらいい？ 逃げる？ 逃げるか？ でも、どうやって？ いや、どうして逃げるんだ？ だってこいつは同じ学校の女生徒だぞ？ そいつが来たただけだろ？ なのになぜ逃げる事を考える？ 自殺しようとしたところを見られたから？ そんなのどうだっていいだろ？ いやいや待てよこいつといたら本当に死ぬぞ？ いやいやいや待て、僕は死にたいんだよ？

渦巻く疑問に喉が詰まる。

声が出そうで出ない、張りつめた喉。

彼女は僕のすぐ目の前まで来て、力の抜けた僕の右手から、ナイフを「えーい」と取り上げた。

彼女は手にしたナイフを見てから、僕へ視線を移した。

その表情は、にやにやと笑顔。

「君、死にたいんだよね？」

彼女は言った。

楽しそうにさえ見える、気まずさも何も持たない声で、言った。

「君、死にたいんだよね？」

その姿に、僕はいつか何かで見た話を思い出す。

自殺を司る女神、イシュタムの話。

彼女は首をつった姿で表される、死者の魂を楽園に導く神様。

楽園へ行くことができるのが果たしてどんな者だったかは曖昧だが

その中に、首を吊って死んだ者、とあつたはずだ。

「死ぬなら首吊りが良いよ。首を吊って死ぬのが、一番美しい死に方だよ」

だとしたらこの人間じゃないような女は、さながら、教室のイシュタムとでも言ったところか。

自殺女神。

イシュタム。

「死にたいなら、ついてきなよ。生きていたいなら、帰りなよ」
僕はさっさと荷物をまとめて帰った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9253z/>

教室の自殺女神（イシュタム）

2011年12月28日23時47分発行